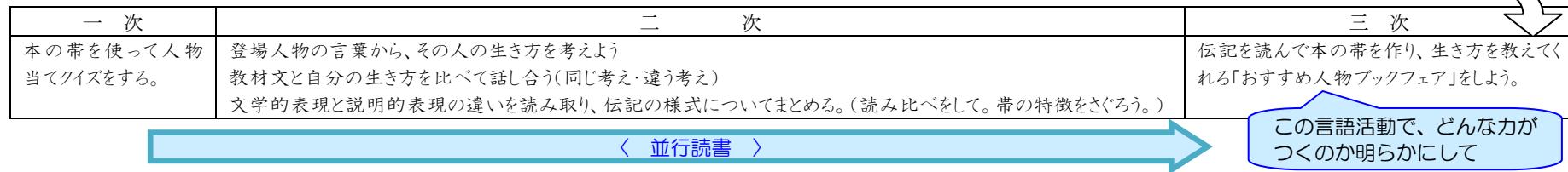


研究主題：自分の考えを 筋道を立てて説明できる子の育成 ~学んだことを活用する場を意識しての授業づくり~

■指導内容： ①指導の系統性を踏まえて、付けたい力の明確化 ②単元を貫く言語活動を位置づけた授業構想 ……付けたい力に最適な言語活動の選定

■指導過程

国語



学校研究の取組 … 板書上で表れる形は？（自分の考えを伝え合い、学び合う授業）

⑦「**学習用語**」を使う、使わせる。
用語の意味を習得し、その用語を活用して、文章と向き合い自分の考え方をつくり、人に對してその思いを論理的に表現させる。

⑧**系統性を踏まえて指導**

(低)登場人物の行動を中心にして…
(中)登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて…
(高)登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え…

研究
テーマ

⑨**つなぎ言葉**を意識させる。
(接続詞・語りはじめの言葉)

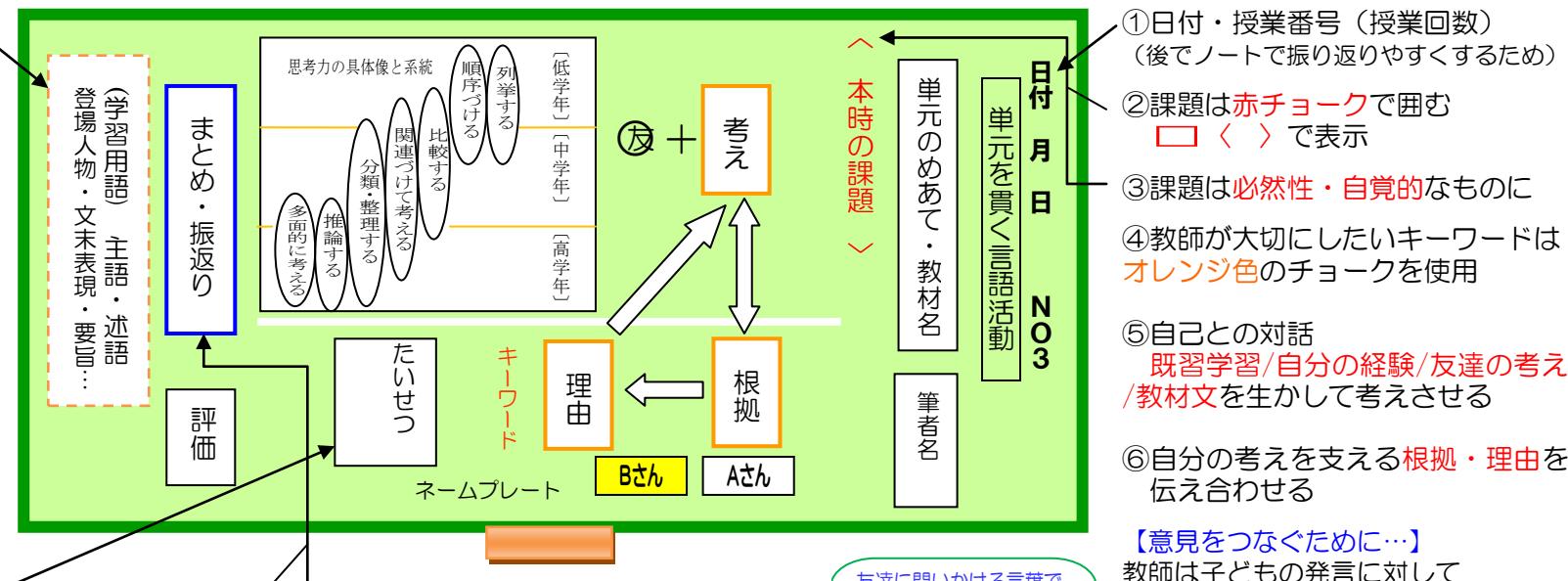
⑩単元・教材で身に付ける知識や技能を示した「**たいせつ**」を生かす(表示)

⑪友達の考え方の**共通点・相違点などを**意識させる

⑫**ネームプレート**を使用。考え方の変化は**黄色**

⑬課題に対応したまとめを意識する。**青チョーク**で囲む

⑭字数(80字以内など)・○○に続くように・敬語を用いてなど**条件**をつけて書かせる場の設定



【まとめの場】
どの子も達成感が持てるよう、書き方の例を示してまとめさせる。
(低)大切な言葉を穴うめしてまとめる。
(中)黒板に書いてあるキーワードをつなげてまとめる。
(高)大切な言葉は何かを考えて、自分でまとめる。

※可視化(活用させたいもの)
学習の足跡を残し、学習を思い起こさせる。(必要なものは教室に掲示)

根拠・理由・考え方の3点セット

【三角ロジック】

考え方
だから
どこから
どう考えるのか
根拠
なぜその根拠でそう考えらるか
理由
だから
はじめて
つまり
そのことは
根拠となる事実
体験例

友達に問いかける言葉で
「～ですね。」「～ですよね。」「ここまでいいですか。」
(聞き手)
「…私の考え方との違いは」



- 《取り組み》
- ①日付・授業番号(授業回数)
(後でノートで振り返りやすくするため)
 - ②課題は赤チョークで囲む
□ < > で表示
 - ③課題は**必然性・自覚的**なものに
 - ④教師が大切にしたいキーワードは**オレンジ色**のチョークを使用
 - ⑤自己との対話
既習学習/自分の経験/友達の考え方/教材文を生かして考えさせる
 - ⑥自分の考え方を支える**根拠・理由**を伝え合わせる

【意見をつなぐために…】
教師は子どもの発言に対して
▲先生は復唱しない
▲先生がいい直さない
▲先生が解説しない
子どもに投げかける

【発問の吟味】
「あなたは… どう考えるの?」
「あなたは どう感じる?」
「あなただったら、どうする」

根拠を明確にした説明・論述
考え方
私は……だと思います。
根拠
叙述に述べられていること・事実
理由
「…」ということは～ということです。